

事業評価票

185	経営活性化支援事業 (中央卸売市場事業部／中央卸売市場会計)	事業開始	平成 21 年度
		事業終了予定	平成 - 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか	
○ 卸売市場は、生鮮食料品等を安定的に供給する役割を担っている。しかし、近年の社会情勢の変化に伴い、市場業者の経営が逼迫するとともに、市場の活力も減少しつつある。 ○ 今後の情勢の変化に対応した市場流通を確保するためには、仲卸業者を中心とした市場業者の独自の取組意欲を喚起し、市場業者の活性化を図ることが急務となっている。 ○ 本事業は、仲卸業者等の行う自主的な取組を総合的に支援し、生鮮食料品流通に必要不可欠である市場の活性化を図ることを目的とする。	
根拠法令等	経営活性化支援事業補助金交付要綱

2 どのように取り組み、どのような成果があったか	
○ 市場業者が取組む以下の事業に対し補助を行う。 ①顧客拡大、顧客サービスの強化に資する事業 ②品質管理の強化や品質保証に資する事業 ③経営の効率化に資する事業 ④新たな流通経路の構築に資する事業 ⑤その他仲卸業者等の経営活性化に資する事業 ○ 都職員で構成される事業評価委員会（以下「委員会」という。）において、事業の規格審査や優良事業の選定などを行う。 ○ 事業の実施状況 21年度：3件、22・23年度：9件、 24年度：10件、25年度：13件、 26年度：9件、27年度：16件（予定） ○ 平成22年度からは、委員会が優良と認めた事業に対して、表彰や講演会での発表等によりPRするとともに、先駆的な取組の普及を行う。 ○ 表彰の実施状況 22年度：2件、23年度：2件、 24年度：2件、25年度：2件、 26年度：1件、27年度：1件	

3 どのような課題や問題点があったか	
○ 各市場の特性を生かした事業を実施することで、より効果的な活性化に繋げることができるが、これまでは実施する団体の財務基盤が盤石とは言い難い面もあり、支出負担額に限りがあることから、事業内容の硬直化を招く要因となっていた。 ○ 各市場の活性化を図るためには、各市場の特性を活かしていくことが重要であり、より個性的な事業の実施が望まれている。	

4 局として、事業をどうしていきたいか					
拡大・充実		見直し・再構築			
移管・終了		その他			
○ 本事業においてこれまで市場業者が実施した取組による成果がPR・普及活動を通じて各市場へ波及し、今後、多くの市場業者が活性化に向けた独自の取組を積極的に行っていくことが期待される。 ○ 次年度以降は、事業の補助上限額を増額することでより個性的な事業の想起を促し、市場の競争力をつけさせ、取扱数量及び金額の持続的な向上を目指し、市場及び市場業者のさらなる活性化に繋げていく。 ○ なお、補助対象案件を絞り込むことにより、補助率と予算額については変更しない。					
歳入	26年度決算額	— 千円	歳出	26年度決算額	3,928 千円
	27年度予算額	— 千円		27年度予算額	8,136 千円
	28年度見積額	— 千円		28年度見積額	8,136 千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか	
○ 事業開始の平成21年度以降、各市場事業者の積極的な取組を支援してきており、事業の実施件数も増加の傾向にある。 ○ しかし、市場事業者の資金面の問題から、実施事業の内容が硬直化しており、市場全体の一層の活性化を図るためには、各市場の特性を活かした、特色ある事業の実施が必要となっている。	

6 28年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実		見直し・再構築	
移管・終了		その他	
○ 予算の増額を抑えつつ、中央卸売市場全体としての活性化が一層促進されることから、見積額のとおり計上する。			
歳入	28年度予算額	8,136 千円	
歳出	28年度予算額	8,136 千円	